

かなん タウンミーティング 2012
第2部 意見交換会 議事録(要旨)

中地域

第2部 意見交換会 (○住民の発言 ●行政の発言)

- ・区長となって最も多いトラブルの原因は野焼き。声かけ、乾燥などのルールも必要だが、ビニールと一緒に燃やすのが一番の問題。アンケートの結果でも多くの住民に迷惑がかかっている。いけないとわかっている、引き取ってくれる所がない。農協は引き取ってくれるけれども、タイミングがあわず、度々引き取ってほしいという要望もある。せめてマルチ関係のビニールは引き取ってもらいたい。
- ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律により野焼きは禁止されているが、農業を営むためのやむを得ない焼却は認められている。その場合でも、風向きや時間帯などに気を配っていただき、やめてほしいという声があれば、町も指導に行く。ビニールハウスのビニールやマルチは、いちご部会の方はキロ31円、それ以外の部会の方はキロ37円で年2回農協が引き取ってくれる。一般の方も、1,360円で大きな袋を購入して出せば、毎年3月年1回だが、引き取ってもらえる。以上のような方法で、燃やさずに出してほしい。
- ・芹生谷地区へのスクールバスを検討してほしい。通学ルートである府道のダンプ通行が、通勤や夕方の時間帯は非常に多い。特に雨の日は傘をさした子どもがダンプの風圧で飛ばされ、コーンは立ててもらっているが、それでも危ない。こういう規制で出来ないではなく、こうしたらできるという方向で検討をお願いする。
- ・歩くことは健康保持の上からも大切であり、道々の語らいや起こる喧嘩も、子どもたちの心の成長にとっては意味がある。従って、即運行という判断は難しい。命の危険性という問題も無視できないが、出屋敷のバスを出す際に、1.9kmを距離の目安とし、さらに五軒家から出屋敷の間は歩道がなく危険ということもあり今年度から走らせている。芹生谷については、距離には余裕があり、水路も担当課と水利組合にお願いし、前向きの改善をいただけるのではないかと認識している。歩くことの意味を含めて、慎重に判断したいと考えており、ご理解をお願いしたい。
- ・亀岡の事故以来、通学の安全は喫緊の問題。国では通学路の整備のため補正予算がついたが、本町でも対応できるかできないか精査していく。
 - ・私から提案。町内の最高速度をすべて30kmにしたい。そうすれば、風圧で飛ばされることもなく、交差点の危険度も下がり、高齢者も安全。渋滞など反対意見もあるだろうが、安全が高まり、道も傷まず、騒音も少なくなる。警察との調整は必要だが、是非やりたいので、ご協力をお願いする。

- ・すぐ走らせようと言えないのかもしれないが、子どもたちがかわいそう。1.9 kmという基準も分かるが、そこを何とかできるよう検討してほしい。
- ・最高速度30 kmの話は、みんなが守ればの話。正直なところ30 kmにされたら困る。
- ・地域の大きな問題については、議員と行政当局、区長をはじめ住民との話し合いをきっちりやらないと、地域の発展、成長戦略は考えにくい。合意ということを踏まえて、慎重に対応をいただきたい。
 - ・危機管理。東日本大震災で、学校の判断で山に逃げて助かり、屋上へ逃げて被害にあったという小学校も見た。本町では地震への備えを徹底してやってほしい。
 - ・大阪都構想も現実味を帯び、30万都市規模のことを考えて行かねばならない。その中で地域の特徴を出すには、防災関係の充実が、かなんの成長戦略に近い。災害対策は、物の道理で、いなすという方向が大事。
- ・住民の意見を聞くせっきやくの機会、行政に反映してほしい。
 - ・防災のための民間事業者との協定も大事だが、東南海・南海地震も近く水はもっと大事と考えるが、町長の課題の中に入らない。今、柏駒線に府営水が入っており、もう一本309号線から白木バイパスへのループ化の計画が進められている。水の備蓄のため、高い位置に相当規模の配水池を設け、遮断弁もつけて、震災時に少なくとも2・3日は給水車で水を配れるような対策をしてほしい。
 - ・全国の公立校の1/3強が小規模校で河南町だけの話ではない。府下に小規模校が少ないのを理由に統合を進めるのはどうか。平成28年には白木小学校は全年20人以下となり、小学校問題審議会の答申どおり行くと、白木小学校は統合することになる。石川の際には、真ん中に新設校の要望があったが実現しなかったが、校区に小学校なくしてまちづくりはあり得ないと思う。

確かに、1学年2～3クラスは理想と思うが、統合しか道はないのか。宮崎県の例では、教科により少人数による指導をし、体育や音楽では数校合同でやるなど工夫しており、やり方は色々あるのではないかな。

3つの小学校を1つにする、当面2つをくっつける、将来的に町の小学校を1つにするなど色々な選択肢があるし、宮崎のように統合せず指導上の工夫でやっていく方法もある。慎重に住民の合意の上で進めてほしい。
- ・水道も、決しておろそかにしていない。災害時には最初の3日保てれば、応援が来る。今、タンクの強化を進めている。
 - ・教育については、話し合って進めます。紹介いただいた事例は、東大の実験校で優秀な先生がいっぱい付いているから成績も良い。

能勢町では、6つの小学校と2つの中学校をくっ付け小中一貫校を目指す首長が選挙で敗れたが、新しい首長も必ずしも反対ではなく、話し合って決めると言っている。

新設校をつくるにしても、空いた学校の維持管理や活用方法も抱き合わせで提案しないと納得は得られない。また、小学校の数をコンパクトにできれば、ぜひエアコンをつけたいと思う。そのようなことも総合的に勘案して、住民の皆さんのご判断を仰ぎたい。

- 近年では浄水場の水が減っており、半分以上は府水に頼っている。現在、石川を渡り柏駒線を通る1ルートだが、災害時は心配ゆえ、泉北の方から309を上げて町に入るもう1ルートを設計してもらっている。また、配水池が最も重要ゆえ、耐震診断、設計、工事とやっていく計画である。
- 井戸を持っておられるご家庭が、かなりあると思う。停電になったとき、電気ポンプをどうするかという問題はあるが、一度町の方で把握し、水質検査を実施して利用することも検討していただきたい。